



開校120周年記念プロジェクト

校長 本間 基史

2月6日に、本校の地域協働学校運営協議会のご協力で開催120周年の節目に児童の思い出に残るイベントを実施しようと「120周年記念演奏会」を開催しました。日本を代表するサックス奏者の本多俊之氏、ギタリストの鈴木禎久氏、ピアニストの本多尚美氏、パーカッションの岩月香央梨氏、ボーカリストのO・Joe氏が全校児童を前にJAZZの演奏を披露してくださいました。

低学年の児童は目の前で繰り上げられるパーカッションのリズムに身体を揺らし、講堂の床を叩いてノリノリになり、高学年の児童は心に染み入るようなソプラノサックスの音色に感激して目に涙を浮かべる子もいました。子供だからと迎合しない、本物の音楽が多く感動を届けてくれました。図々しくも、私も本多さんに誘われて、大好きなJAZZギタリストの渡辺香津美さん（闘病中）と本多さんが共演していた「キャプテン・セニョール・マウス」という曲で一緒にギターで参加させていただきました。また、アンコールでは加地PTA会長にもベースで参加していただきました。

演奏後の子供たちの感想は、金管バンドの児童は「これからも楽器を続けたいと改めて思った。」中学年の児童は「ピアノを習っていて、もうやめようと思っていたけれど、今日の素敵な演奏を聴いて、続けようと思いました。」など、自分も大きくなっても楽器を演奏し続けたいと思ってくれたようです。また、2月8日（土）の学校公開の午後にはPTA主催で「120周年記念祭り」を企画してくださり、縁日のようにブースをまわり、お菓子を貰い、楽しみました。たくさんの保護者の方のご協力に感謝申し上げます。これで120周年記念イベントはひと段落ですが、次年度も引き続き日々の授業と合わせて、様々な体験活動、ゲストティーチャーとの連携など豊かな教育活動を実現していきたいと思っております。引き続き、家庭と地域と連携して健やかな児童の育成に努めます。本年度の学校運営へのご理解、ご協力に感謝申し上げます。そして、次年度もよろしくお願いいたします。

研究の成果

研究主任

「校内研究」は、子供たちによりよい学習の機会を提供するために、私たち教員が授業改善に向け取り組んでいくことを目的としています。津久戸小学校では「児童の心と体をつなぐ体育学習」を主題に研究を行いました。

体育学習は、運動技能を身に付けることだけが目的ではありません。運動場面を通して、自己の感情や行動を統制する能力や多様性を尊重する態度、互いのよさを生かして協働する力など、非認知能力を育むことができるのです。

そのために、一人一人が運動課題を明確にもち、解決のための方法を考えて、学習できるような授業が求められています。これらは、体育科のみならず、全ての教科で、さらには社会に出た際に必要な汎用的な資質・能力と言えます。

体育学習を通して、こうした力を育むためには、前提として運動が楽しくなければなりません。今年度、校内研究に取り組み、授業改善に励むことで、多くの児童が体育学習に前向きに取り組む姿が見られました。ぜひ、ご家庭でお子さんと日頃の体育学習について話題にしてみてください。

音楽室より

音楽専科

今年度は3年ぶりの音楽会を12月に開催することができました。前回はコロナ禍で、全校児童が聴き合うことができない状況でしたが、今回は全校児童が講堂に集まり、互いの頑張りを認めるよい機会になりました。保護者の皆様は席数の関係で入れ替え制になりましたが、ご協力いただきありがとうございます。3学期には3年生以上は箏の学習をしました。慣れないうちは角爪をはめた指が痛いと言いながら弾いていましたが、6年生にもなるとさすがに余裕が出てきて、よい音色を追求する姿が見られました。

